

## 編集後記

「平和を考える小中学生作文集第30集」をお届けします。本年度はこの作文集に、小学生から38点、中学生から69点、計百七点の作品が寄せられました。本年度の作品も多岐にわたり、平和・戦争・核兵器などについて、小・中学生なりの視点で、真剣に向き合う様子が伝わってきました。

沼津市が「核兵器廃絶平和都市宣言」を行ったのは、1987年のことでした。その後、日本は、1994年から「核廃絶決議案」を24年にわたって国連に提案してきました。昨年（2017年）も同様に提案されたのですが、賛成は前年より23減の144国、棄権が10増の27国という結果で、採択はされたものの、厳しい批判にさらされました。大きな要因の一つが、同年同じく国連で採択された「核兵器禁止条約」に、日本が反対の立場をとったことです。また、「核廃絶決議案」の中の、「核兵器のあらゆる使用が壊滅的な人道上の結末をもたらす」と明記していた前年の文言から、「あらゆる」が削除されたことにより、「昨年より内容が後退した」という批判も受けました。

だれもが平和な世の中を望んでいるはずですが、それぞれの国の立場や思惑が、問題をより複雑にしています。グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造は急激に変化しており、予測困難な時代を、今の子どもたちは生き抜いていかなければなりません。一人一人が持続可能な社会の担い手として、多面的・多角的に考え、多様な考えを認め、よりよい社会を創っていこうという姿勢をもつことが必要です。

この作文集を通して、沼津市の小・中学生の皆さんが、世界の人々と本当の平和とは何か、ともによく話し合い、未来へと希望をつないでくれることを願っています。そして、沼津市が「核兵器廃絶平和都市宣言」で誓った、「美しい地球、そして平和な生活を子々孫々まで守りぬくこと」について、責任の重さを受け止め、そのための努力を惜しまず続けていってほしいと思います。

最後に、この作文集を読んでもくださった皆様方に心から感謝申し上げます。